

仮設住宅でのストレス対策について

チーム 地震_津波の復興

屋嘉比福々（別府翔青高校）／菅俊介（佐伯鶴城高校）／今泉敬士郎（佐伯鶴城高校）
渡辺脩蔵（佐伯鶴城高校）／河野友哉（佐伯鶴城高校）



仮設住宅での
ストレス対策
について

1 メンバー

別府翔青 屋嘉比福々
佐伯鶴城 菅俊介
佐伯鶴城 今泉敬士郎
佐伯鶴城 渡辺脩蔵
佐伯鶴城 河野友哉

2 テーマ

長期にわたる仮設住宅
生活のストレス軽減

3 設定理由

東日本大震災被災者の一部はまた仮設住宅で過ごしており...

3 設定理由

東日本大震災被災者の一部はまた仮設住宅で過ごしており... ストレス多いの嫌だな...

3 設定理由

ストレス

3 設定理由

ストレスが多い中で
長期間なんてヤダ!

3 設定理由

もし自分たちが被災した際、復興までの生活が快適なものであって欲しいため。

被災直後 避難所生活 仮設住宅

この中で
より長いのは...

被災直後 避難所生活 仮設住宅

ここ!

4 ありたい姿

仮設住宅でのストレスフリー

仮設住宅でのストレスフリー

穴水町役場とのミーティング結果の要約

問題点
・仮設住宅の建設地→公用地ならやりやすい
建設の早急優先
・長期間仮設住宅に住むとなると3、4ヶ月目から「家が狭い」などの苦情が
・仮設住宅→プレハブ型 7割
木造の長屋タイプ 3割
・復興状況→3割ほど復興済みであるが、しかし業者が見つからなかったりと進みは遅くなっている
・騒音問題

穴水町へのアンケートの要約

質問	回答
仮設住宅への入居時の配慮は？	・幼児、児童、高齢者、障害者、他世帯者等を優先事項。あくまで優先
コミュニティ形成の現状	・一部を除き自治会が設立されている
現在の復興進捗状況（互換補償、退去戸数）	・公費削減→40%ほど 退去割合 建築型仮設住宅3.4% 賃貸型仮設住宅3.3%
人間関係や孤独感に対するサポートについて	・情報共有や、様々な機関と連携し、月3回ほど見守り活動（今後についての相談を受けるなど）
自治体への支援、コミュニティ形成援助について	・補助金の交付は行なっている

5 ありたい姿と現状のGAP

騒音問題
ハードの問題 ◇◇◇ 交通面での不便
気候風土への未対応

ソフトの問題 ◇◇◇ 仮設住宅での人間関係

5 ありたい姿と現状のGAP

騒音問題
隣接する仮設住宅で防音が不十分なために音をめぐるトラブルが多い

5 ありたい姿と現状のGAP

交通面での不便
・買い物、通院のための交通手段が少なく、タクシー等を使わなくてはならなくなり移動費が高額になる（平成23年に行われたアンケートでも約4割の入居者から「不便」）

5 ありたい姿と現状のGAP

気候風土への未対応
・大量供給が第一とされたため、風土に対応した仕様はなされていなかった。（日当たりが悪い地域での寒さ対策等）

5 ありたい姿と現状のGAP

仮設住宅での人間関係
・特定の地域から出身した人たちが公共の場を占領しやすい
・仮設住宅建設会社の違いにより設備に差が生まれ、妬みなど
・孤独死

6 問題探究

慣れない避難所生活 → 身体的な疲労
気候風土への未対応 → 身体的な疲労
人間関係 → 精神的な疲労
騒音問題 → 精神的な疲労
交通面での不便 → 経済的な負担
住居の倒壊 → 経済的な負担

7 課題設定

問題探究により、ストレスが溜まる原因が明らかになった。しかし、原因だけわかっていてもストレスは減らない。ここで私たちは被災地の方々からストレス解消をしやすいように工夫しようと考えた。

特定 ストレス源の → ストレスを知る → ストレス発散方法 → ストレスフリー

8 プロトタイプ

ストレス解消方法をわかりやすくまとめるのにYES NOチャートを作成した。

--- NO
--- YES

ストレスを感じている？

ストレスを感じている → 交通面での不便を感じている → 生活リズムは整っている方だ → ボランティアによる参加呼びかけがあるから、調べてみよう

ストレスを感じている → 仮設住宅に移動してすぐ近くにコミュニティで行事が行われていた → 自分から話しかけられると思う → 何事も基本は生活リズムから！定期的な生活リズムを整えてみよう

ストレスを感じている → 被災前、近所づきあいがあった → コミュニティでできている行事に参加しよう → 趣味はある？ → 趣味を探してみよう！（例えば、地域の行事やボランティア活動など）

ストレスを感じている → 表層らしい！周りに声を掛けてみよう！ → 関係されてる行事に参加してみよう！ → 周りに話しかけてみよう！ → 周りに話しかけてみよう！ → 周りに話しかけてみよう！

9 総括

自分たちが被災した際にストレスなく過ごしたいため、被災後のストレスフリーについて探究していった。その中でも仮設住宅に着目し、ストレス源の特定とそれに対する適切な対処法の提示をわかりやすくまとめるように工夫した結果、YES NOチャートを実験として作成した。

10 参考文献

https://www.toshicon.or.jp/wp/wp-content/uploads/2015/04/06-2.pdf
穴水町役場へのヒアリング、ミーティング
被災後の仮設住宅における近隣関係—熊本県被災地の仮設住宅とみなし仮設住宅の比較— 小池 尚
大震災発生からのコミュニティの再構築とコミュニティの脆弱性に関する研究—インドネシア、アフガニスタン、シリアの仮設住宅を事例として— 高橋 知、松尾 正
仮設住宅の居住環境に関するアンケート調査結果を踏まえた対応について（仮設住宅の居住環境等に関するPT中継報告書）
https://news.yahoo.co.jp/exper/articles/9efc90848e07bce621f5e87e2b1b7102ab
https://search.yahoo.co.jp/search?p=QXZ565p35w
https://www.nikkei.com/article/DGKKZ0566428700A310C2CR000/
https://www.toyo.ac.jp/link-toyo/life/shelter_life/



発表動画は
こちら

